

松嶋夜話 卷之下 33

〔原文〕元禄癸未夏之夜一夕夢登一大山

〔訓読〕元禄癸未の夏の夜、一夕、一大山に登るを夢む

〔原文〕山上有古寺

〔訓読〕山上に古寺有り

〔原文〕巡於寺

〔訓読〕寺を巡りて

〔原文〕出于庭立矣

〔訓読〕庭に出でて立つと

〔原文〕四顧清明

〔訓読〕四に顧みるに清明なり

〔原文〕凝眸遠巒

〔訓読〕眸を遠巒に凝らす

〔原文〕青山萬疊

〔訓読〕青山萬疊

〔原文〕翠色如染

〔訓読〕翠色染めるが如し

〔原文〕余梦中憶

〔訓読〕余夢中に憶へらく

〔原文〕心身齊在于義皇上

〔訓読〕心身齊く義皇上に在るか

〔原文〕遺興不止之間爲一偈片曰

〔訓読〕遺興止まらざる間、一偈片を爲る、曰く

〔原文〕兩兩三三三月枝枝華謝緑依依

〔訓読〕兩兩三三、三月の枝。枝枝華謝して、翠依依たり

〔原文〕不離當處是奚物

〔訓読〕當處を離れず、是れ奚(な)に物ぞ

〔原文〕大地本然清淨姿

〔訓読〕大地本然清淨の姿と

〔原文〕余吟罷夢覺

〔訓読〕余吟じ罷りて夢覺む

〔原文〕覺不忘夢語

〔訓読〕覺めて夢語を忘れず

〔原文〕翌日茶話次記而以呈先師

〔訓読〕翌日茶話の次記して以て先師に呈す

〔原文〕先師曰

〔訓読〕先師曰く

〔原文〕古人道行往坐臥

〔訓読〕古人道ふ、行往坐臥すと

〔原文〕無非佛事

〔訓読〕佛事に非ざること無しと

〔原文〕然汝梦中説得夢語而作夢之會何乎

〔訓読〕然るに汝夢中に夢語を説き得て、夢の會を作ることは何ぞや